

コミュニケーション能力の育成～発信力をはかり、育む評価とは～

英語科 石川剛 柴田茉里奈 小野木ゆみ

1. 主題設定の理由

(1) コミュニケーション能力を育む授業

社会の急速なグローバル化が進む近年、国際共通語である英語力の一層の充実が日本の将来にとって極めて重要な課題である。また 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据え、グローバル化に対応した新たな英語教育の改革が不可欠とされており、英語教育を取り巻く環境の変化には著しいものがある。文部科学省は新たな英語教育が本格展開できるように「グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言」を発表し、基礎的・基本的な知識・技能と、それらを活用して主体的に課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を重要な課題として挙げている。上記の点を踏まえ、附属池田中学校英語科としては現行の学習指導要領における目標はもちろん、新たな英語教育に求められている英語によるコミュニケーション能力を養い、生徒の英語力を向上させるよう取り組んでいる。

(2) 英語科における「知」とは

我々が考える「コミュニケーション能力」とは単に自分の考えを伝える力ではなく、相手の意向を理解し、自らの考えに理由や根拠を付け加え、適切に表現したりして通じ合うことができる能力である。附属池田中学校英語科では、この自らの考えを適切に表現する力を「知」（発信力）と設定し、2年間研究を重ねてきた。この「知」（発信力）とは先に述べたコミュニケーション能力の中核をなすものであり、学習指導要領に示されている言語や文化に対する理解や積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と不可分に結びついている。またこの力は言語や文化に対する理解の深まりや積極的な態度の向上によって、一層高まるものである。

(3) 英語の「知」をはかるには

「つながり、かさなり、ひろがる授業」の3年次として本年度は特に評価に関して研究を行う。評価に関しては小中高を通じて一貫した学習目標を設定し、「英語を用いて何ができるようになるか」という観点からその目標を具体化、それに基づいて4技能を評価する必要がある。そのため各単元の最後には総括的評価としてパフォーマンス課題を設定し、言語活動の質的、量的な充実を念頭に指導計画を立てる。その指導計画を立てる際にはウィギンスとマクタイは「求められている結果（目標）」を明らかにし、「承認できる証拠（評価）」を位置づけ、そして「学習経験と指導（指導の手立て）」を三位一体のものとして計画するという逆向き設計論（西岡加名恵訳）を提唱しているが、われわ

れもその理論に基づいた授業を行っている。

具体的には各パフォーマンス課題を実施するに当たってルーブリックを作成し、教師自身が生徒に何を求めるのかをきちんと把握し、そのために必要な手立てを設定する。生徒がそれぞれの単元における目標を達成するためには、教師自身が学習の意図や評価の観点を明確化するだけでなく、生徒と共有することが不可欠である。そのため各単元の初めにルーブリックを提示し、生徒に最終的な自分の姿をイメージさせることを行う。あらかじめ課題のルーブリックを示すことで、生徒が本単元で求められている目標に向かって努力することができ、学習の効果が期待できると考えている。その上、目標に対する達成度を自ら評価したり、学習方法を改善することも可能であり、自ら課題を見つけ、自ら考え、自ら問題を解決するといった自己の学びをコントロールできるような自立した学習者を育てることに繋がると考えている。

またパフォーマンス課題に至るまでの活動は多岐に渡り、スモールステップを心がけ、様々な言語活動を設定している。それぞれの段階で、単元の目標に対して生徒がどの程度達成しているかを適切に把握し、それに即した指導を行っている。このような形成的評価を繰り返し行うことで、更なる学習の促進と指導の改善を図ることができると考えている。

(4) 中学校英語科における役割とは

英語科における役割とは、単に英語力を高めることだけではなく、言語を学習する科目として、相手を認める・受け入れると同時に発信・表現することの喜びを伝えることである。自他共に尊重し、発信することを恐れない生徒を育てるには、小中高を通して発表・意見交換の機会や成功体験を多く持たせる必要があると考えている。

特に中学校では、小学校の外国語活動で育まれた素地の上に、「話す」「聞く」「書く」「読む」といった4つの技能をバランスよく育成し、高等学校への橋渡しをする必要がある。生徒が英語に触れる機会を充実させるために普段から授業は英語で行うことはもちろん、内容に踏み込んだ言語活動を重視している。また文法訳読に偏ることなく、身近な話題について情報を聞いたり読んだりして内容を理解した後、自分の言葉で工夫して表現力豊かに伝えたり、互いの考えや気持ちを英語で伝え合うコミュニケーション活動を多く設定している。

参考文献

- 1) 文部科学省(2008)「中学校学習指導要領 外国語編」
- 2) 文部科学省(2014)「今後の英語教育の改善・充実方策について 報告～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～」2014年10月発表 文部科学省
HP(<http://www.mext.go.jp/>) (2016年1月現在)
- 3) Wiggins, G. & McTighe, J. (1998). *Understanding by Design*. Alexandria, Virginia: Association for Supervision and Curriculum Development

2. 実践の概要

【実践事例1】

(1) 対象 第1学年

(2) 単元名 Our Fuchu Life

(3) 単元設定の理由

グローバル化が進展する現在、異なる文化や文明との共存や国際協力の必要性がますます高まっている。外国語の学習を通して、言語そのものの運用能力を育むことはもちろん、その背景にある文化に対する理解を深めることや積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成は日本の将来を担う若者にとって極めて重要なことである。そこで本単元では日本と諸外国における学校生活の違いを認識させ、同時に自分たちの学校の良さや自国を含むそれぞれの国の文化に対する理解を深めさせたい。そのため附中の学校生活について海外の学生に対して紹介する活動を本単元の最終課題に設定する。また本単元では「なぜ相手の文化を理解する必要があるのか」という探究的質問を設定し、単元を通して生徒たちに異文化理解の概念を理解させたい。

今回の学習指導要領改訂において、新たに「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどと結びつけながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することが可能となるよう、4技能を総合的に育成する指導を充実することが明示された。本単元においては原稿作成に至るまでに教科書はもちろんのこと、本やインターネットを利用させ、様々なりソースから情報を収集させる。また紹介文の正確さや内容の適切さを確認できるようにペアやグループで互いの原稿を読み合ったり、聞き合ったりする場を設定し、読み手や聞き手からのアドバイスを参考に付加修正させる。この活動を通して、生徒たちは協働することの必要性を学び、同時にコミュニケーション能力を育むことができる。

(4) 単元の目標

- 間違いを恐れず積極的に言語活動に取り組もうとしている。
- 写真の内容を説明することができる。
- 各国の学校生活に関する英文を聞いたり、読んだりして要点をつかむことができる。
- 現在進行形の文構造に関する知識を身につけている。

(5) 評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
① ペアワークなどの活動において間違ふことを恐れず話そうとしている。	① 写真を見て今の状況を英語で説明することができる。	① 現在進行形を含んだ英文を聞いたり、読んだりして内容を理解することができる。	① 現在進行形を用いた文の構造に関する知識を身につけている。
	② 文の構成を理解し、附中の素晴らしさを紹介する英文を書くことができる。	② 様々な国の学校生活に関する英文を聞いたり、読んだりして要点をつかむ事ができる。	

(6) 指導計画 (全 11 時間)

時数	ねらい	主な学習活動	評価規準				評価方法
			コ	表	理	言	
第 1 時	・本単元のねらいを知る。	・ Song of the Month ・単元の performance test の説明 ・新出単語導入	①	①			活動の観察
第 2 時	・現在進行形を用い、写真の状況を説明する。	・ Song of the Month ・ 90 sec quiz (English to Japanese) ・現在進行形の導入。 ・ Story Making	①	①		①	活動の観察 ワークシート チェック
第 3 時	・現在進行形の疑問文とその答え方を学ぶ。	・ Song of the Month ・ 90 sec quiz (English to Japanese) ・現在進行形(疑問)の導入 ・ Who are the best actor and actress? (Gesture game)	①			①	活動の観察 ワークシート チェック
第 4 時	・教科書本文 p. 92, 94 を通して読み、内容を理解する。 ・教科書本文を暗記する。	・ Song of the Month ・ 90 sec quiz (Japanese to English) ・ The teacher 練習 ・教科書 p. 92, 94 reading			① ②	①	活動の観察 ワークシート チェック
第 5 時	・教科書本文 p. 96, 97 を読み、内容を理解する。	・ Song of the Month ・ 90 sec quiz (Japanese to English) ・教科書 p. 92, 94 reading			① ②	①	活動の観察 ワークシート チェック
第 6 時	・外国(イギリス)の学校生活について理解する。	・ Song of the Month ・ The teacher ・ 90 sec quiz (Japanese to writing) ・ School life in the UK (watching) ・ School life in the world(reading)	①			①	活動の観察 ワークシート チェック
第 7 時 (本時)	・外国の学校生活について理解する。	・ Song of the Month ・ The teacher ・ 90 sec quiz (Japanese to writing) ・ chat time ・ School life in China and Australia ・ School life in the world(reading)	①			①	活動の観察 ワークシート チェック
第 8 時	・附中の学校生活を写した写真を説明する。	・ Song of the Month ・ The teacher ・ 90 sec quiz (Japanese to English) ・ chat time ・ Our school life (原稿作成)	①	① ②			活動の観察 相互評価
第 9 時	・班のメンバーと協力して推敲を重ね、原稿を完成させる。	・ Song of the Month ・ The teacher ・ 90 sec quiz (Japanese to writing) ・ chat time ・ Our school life (peer check)	①	① ②			活動の観察 ワークシート チェック ループリック
第 10 時	・完成した原稿を発表のために練習する。	・ Song of the Month ・ The teacher ・ Word quiz ・ Our school life (発表練習)	①				活動の観察 ワークシート チェック 相互評価
第 11 時	・班ごとに自分たちでまとめたものを発表する。	・ Song of the month ・ Speech "Our Fuchu Life"	① ②	①	①	①	ループリック 個人内評価 相互評価

その後、班でまとめたものをオーストラリアの Narangba Valley State High School に送る。

(7) 本時の学習

1. 本時のねらい

○ペアワークで間違えることを恐れずに話そうとしている。(関心・意欲・態度)

○海外の学校制度に関する英文を読み、要点をつかむ。(外国語理解の能力)

2. 展開

学習過程	学習活動および内容	指導上の留意点	評価の観点
あいさつ (5分)	Song 'Good time' Greeting		
帯学習 (20分)	The Teacher ・本日の先生役の生徒2人がクラス全体に質問する。 90 sec quiz ・90秒以内にいくつ英単語を書けるかペアで競う。 Chat time “What is your favorite subject?” ・ペアで会話する。 ・トピックに関する相手の情報を reflection sheet に書く。	会話を継続できるように全体で重要フレーズの確認を行う。その際視覚的情報を与え、確認させる。	ループリックに従って評価する。 間違いを恐れずにペアと協力して会話を続けようとしているか。 (関心・意欲・態度)
導入	Listening p. 98 ・中国とオーストラリア出身の留学生から学校生活に関する話を聞いて日本との違いを聞き取る。		
展開 (25分)	School lives in different countries ・200語程度の諸外国における学校制度についての英文を読んで情報を収集する。	4人班で協力して取り組ませる。英文の日本語訳を作るのではなく、重要な情報をつかむことを目的とさせる。	諸外国の教育に関する英文を読んで要点をつかむことができるか。 (理解)
まとめ	次回の Chat time “What is your favorite school event?” のために Story- Developing map を作る。	教科書 98 ページの IDEA BOX の語彙を参考に作らせる。	
あいさつ	Greeting		

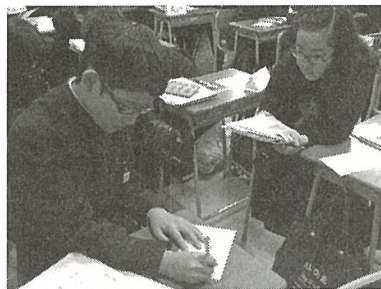
(8) 成果と課題

単元の最初の授業でパフォーマンス課題やそのねらいをルーブリックとともに提示することで生徒が見通しを持って学習に臨むことができた。またひとつひとつの活動において生徒がその活動の意図を理解し、取り組んだことが最終のパフォーマンス課題での素晴らしい作品に繋がったように感じる。情報収集の場面では外国での学校生活に関する映像や英語で書かれた記事を読むことなど本物の英語に触れることができ、生徒の英語学習に対する動機付けに繋がったように感じる。しかしその一方で語彙不足や既習の文法事項の少なさから理解することが困難な様子も見られた。その点を考慮し、ペアワークやグループワークを設定したが、十分ではなかった。全員が理解できるようなスモールステップを心がけた足場作りが必要である。次年度は英語の基礎的な能力を伸張させるだけでなく、外国の文化や歴史を理解し、英語をコミュニケーションのツールとして使える生徒を育成できるよう指導する。そのため現実社会との結びつきや文化、歴史などの英語という言葉の背景にあるものを理解するような仕掛けを多く設定したい。急速なスピードでグローバル化する社会に対応出来るような必要なスキルや態度を育成し、国際的な視野を持ったグローバル人材を育成したい。

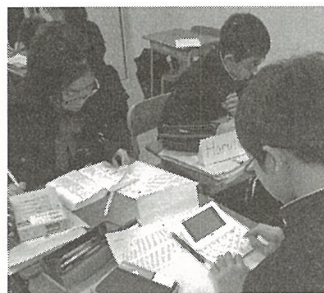
(9) 活動の様子と生徒の作品



< The Teacher の活動 >



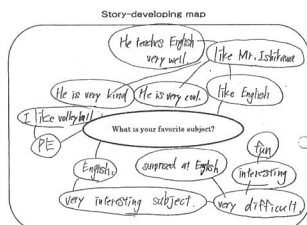
<90sec の活動 >



<group work の様子 >

Introduction	I'm going to tell you about a short trip to <u>Nara</u> in June. <u>The 1st grade students go to Nara every two days.</u> This is our school event.
Body	This is a photo of the trip. The temple's name is "Nigatsu-do" (=月堂). We around several sights in this trip. <u>We can feel Japanese histories and tradonal cultures.</u> This is very nice tradonal? It was event. And I met my dear. They were very cute.
Conclusion	I like short trips very much. My friends like them, too. What's your favorite school event? Please tell me!!

※1行ずつ空けて書くこと。
 最終半思いのこらして質問が書かれていて、良かった。小谷 阿部 89 words
 説明が明かしてあげた方がいいです。



<Story-developing map >

<Who is the best actor and actress?の活動 >

Chat Time #6 "What is your favorite subject?"
 No. 55
 Class: _____

Date: February second	Partner(A): Kazuki	Evaluation
相手の情報:	because Kazuki likes English because he likes Mr. Ishikawa.	Eye contact (A) B C D
1	He studying English, there difficult questions. He is very interesting. He likes difficult questions too.	賛成/反対 (A) B C D
この表現が書えたら:	I like your idea. You are right. I agree with you. Oh! Ready? That's true.	質問をする (A) B C D
		確認する (A) B C D
		Echo (A) B C D
		Time 60 seconds

Date: February third	Partner(B): Shunta	Evaluation
相手の情報:	Shunta's favorite subject is English, he likes Mr. Ishikawa. We like him very much.	Eye contact (A) B C D
2	Mr. Ishikawa is very kind teacher.	賛成/反対 (A) B C D
この表現が書えたら:	You are right. I think so, too. I like your idea.	質問をする (A) B C D
		確認する (A) B C D
		Echo (A) B C D
		Time 60 seconds

Date: February fifth	Partner(C): Rina	Evaluation
相手の情報:	Rina's favorite subject is social studies. she likes Mr. Yoshida and Mr. Ming mika. they are very funny. Mima is very	Eye contact (A) B C D
3	I think so too. How about you.	賛成/反対 (A) B C D
この表現が書えたら:		質問をする (A) B C D
		確認する (A) B C D
		Echo (A) B C D
		Time 50 seconds

反省&感想
 今回は劇を演じた経験した方が多かったです。4人の発表が面白かったです。仲間意識が育ちました。次回も頑張ります。

Good!

<Chat Time の Reflection sheet >

< peer correction のワークシート >

【実践事例2】

(1) 対象 第2学年

(2) 単元名 What's the favorite thing in the class?

(3) 単元設定の理由

本単元は、自分の持っている情報、アイデア、主張を聞き手に効率的に伝えるという題材である。これまでに学習してきた知識を活用することで、自分たちが調べたことについて意見や感想を交えながら英語で伝えられることを実感させ、コミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを認識させたい。

本単元において生徒たちは、自分たちの興味のあることについてクラスの中でアンケートをとり、その結果について比較表現を使ってプレゼンテーションを行う。ここでは、本単元で学習する、視覚に訴えかける手法を用いながら、調査結果をできるだけ正確に伝える方法を身につけさせる。その中で、物事をわかりやすく伝えることや人の説明を聞いて理解することを経験させ、コミュニケーションへの関心・意欲を高めていきたい。またプレゼンテーションを行った後に、感想発表や質疑応答をする機会を設け、プレゼンテーションを一方的な発表で終わらせるのではなく、コミュニケーションを図るきっかけにしたい。「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」という4技能を統合的に活用させ、発表内容を的確に聞き取り、自分の考えや感想を伝え合う授業を作っていきたい。

(4) 単元の目標

- 間違いを恐れず、積極的にプレゼンテーションをする。
- グラフや表を利用しながらプレゼンテーションすることができる。
- 人の説明を聞いて、理解することができる。
- 学習した単語や比較表現を用いた文の構造を理解できる。

(5) 評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
間違ふことを恐れず積極的にプレゼンテーションや対話に取り組んでいる。	本単元で学習する文法事項を含むアンケート結果を集計し、グラフや表を利用しながらプレゼンテーションすることができる。	本単元で学習する文法事項を含むプレゼンテーションを聞いて、その内容を聞き取ることができる。	本単元で扱われた単語・表現についての知識を身につけている。

(6) 指導計画 (全7時間)

- 第一次 比較表現を用いた文の文法項目を学習する。(2時間)
- 第二次 教科書全文を読み理解する。
相手に伝える情報ごとに適した発表方法を学習する。(2時間)
- 第三次 アンケートの作成方法を学習し、班でアンケートを作成する。
アンケートを集計し、クラスで人気のあるものや人物について発表する。(3時間)

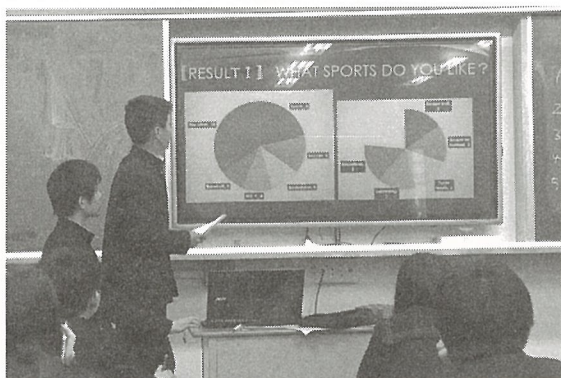
(7) 本時の学習

1. 本時のねらい

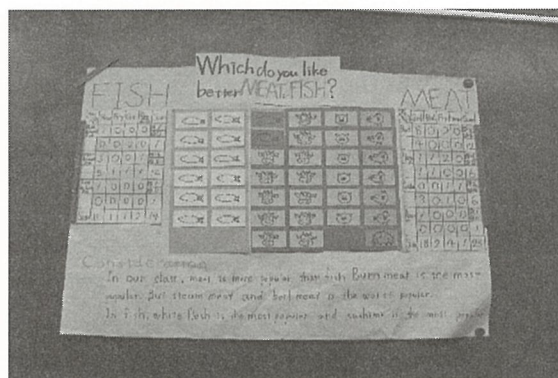
- 間違いを恐れず、積極的にプレゼンテーションをする。(関心・意欲・態度)
- グラフや表を利用してプレゼンテーションすることができる。(外国語理解の能力)

2. 本時の実際

まず、授業者が様々な身の回りのものや人物の紹介などをし、比較表現の導入を行った。その際に、授業の最初に帯活動として行っている”Song of the Month”で扱っている曲も使用した。その後、本文を使用して決まった比較表現(I like A better than Bのような)を学習した。さらに、情報を効果的に伝える手法や、情報ごとでの効果的な視覚的情報の使い分けについても学習した。その後、4人班で「自分たちの興味のあること」というテーマで1つトピックを決め、それに関する簡単なアンケートを作成し、添削後に再度作成したのちに、クラス内で配布した。回答されたアンケートを班で集計し、パワーポイントや模造紙を使用して、発表準備を行った。最後にクラス全体で、グラフや表を利用しながらプレゼンテーションを行った。また発表を聞いている間、生徒はルーブリックを参考にしながら発表している班の評価を行った。



▲発表の様子



▲生徒が作成した模造紙

(8) 成果と課題

アンケートを作成する際、未習の単語や表現は積極的に辞書で調べて、意欲的にアンケート作成に取り組んでいた。また、発表に向けて新しい表現を覚えようとするなど、積極的に英語を使用する姿勢や態度を見ることができた。今回4分程度の発表を行ったのだが、まとまった量の英文を作成することで表現の能力、また様々な視覚資料を用いながら、分かりやすく他者に情報を伝えるというプレゼンテーションの能力は高まったに違いない。しかし、グループ内の協力体制ができていない班も見られ、班の中で発表原稿の作成をほとんどできていない子も数人見られた。班による活動では1人当たりの仕事量に差ができてしまうという傾向がある。今回の発表では1人あたりの発表時間は制限してあったのだが、原稿作成段階においては制限を設けていなかったため、配慮が不十分であったといえる。班活動をさせる際には、グループの中で他力本願な生徒がでないよう、より工夫することが必要である。

急速な社会のグローバル化が進む中で10年後、20年後のグローバル社会で活躍できる人材の育成が必要になってくる。国際的な視野を持った生徒を育成するためにも、授業と現実社会が乖離したものではなく、英語を通して社会とのつながりを生徒が感じられるような授業を目指したい。

【実践事例 3】

(1) 対象 第3学年

(2) 単元名 We Can Change Our World

～What could we learn from William Kamkwamba's actions?～

(3) 単元設定の理由

この単元（“New Crown English Series 3” Lesson 7）では、アフリカ大陸南東部にあるマラウイ共和国出身の William Kamkwamba の実話が紹介されている。2002年の大干ばつで一家の収入が無くなり、学費が払えなくなったため中学を退学したが、図書室の本から得た知識をもとに廃材で風車を作り風力発電に成功し、14歳ながら地域の生活向上に貢献した。その後、南アフリカとアメリカで教育を受け、アフリカの地方の経済活性化と貧困からの脱出を目指して、様々なプロジェクトを立ち上げた。生徒と同年齢の少年が想像力、実行力、問題解決処理能力によって社会貢献をした事を知り、生徒は自分たちが社会で何ができるかを考える。本単元ではまず2つの文法項目（want+A+to～、間接疑問）を学習する。中学校3年間で学習する文法事項はほぼ終わっているため、今まで学習した文法力を総動員して、「自分たちがこれからの世の中のためにできること」というテーマで発信することを最終ゴールに設定した。本学年の生徒は1年生の時からペアワークや班活動を行い、お互いに協力し合って学習を進める事ができると共に、個人の発言も活発に行われている。1年生の時から続いている「自学ノート」に見られるように、autonomous learnersとして学習を進めている生徒も多数いる。日頃からできるだけオーセンティックな場面を生徒に提供することを心がけている。英語が教科書の中だけのものではなく、様々な情報を得、相手の意見を聴き、自分の意見を発信し、世界とつながるための手段の一つとして捉えて欲しいと願って授業をしている。

(4) 単元の目標

- 創意工夫で社会貢献ができることを学ぶ。
- 一人ひとりができる社会貢献について考え、自分の意見を文章にする。
- want+A+to～「Aに～してもらいたい」と間接疑問の文の構造を理解し、使えるようになる。
- 自分たちで決めた評価規準に従って、班で協力して英文の訂正ができる。

(5) 評価規準表

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
・カムクワンバさんの実話に興味を持ち、自分ができる事を考える。 関心を持って他の生徒の作文を読み、評価規準にしたかって意見を述べる。	・正しい強勢、イントネーション、区切りを用いて適切に音読できる。 ・自分の意見をまとめて書くことができる。	・本文の内容を正しく理解することができる。	・want+A+to～、間接疑問を用いた文の構造を理解している。

(6) 指導計画 (全8時間)

- 第1次 導入、want+A+to～、間接疑問を学習する。 (3時間)
- 第2次 教科書を読み、内容を理解する。 (2時間)
- 第3次 自分の意見を書いて、評価する。 (2時間 本時2/2)
- 第4次 まとめ (1時間)

(7) 本時

目標

- 関心を持って班の生徒の作文を読み、評価基準に従って作文をより良いものにする。
(関心・意欲・態度)
- 自分の意見をまとめて英語で書くことができる。(表現の能力)

展開

学習過程	学習および内容	指導上の留意点	評価の観点
あいさつ	Greeting Song		
帯学習	Pronunciation Drill 日本人にとって同じように聞こえる 2つの音の発音練習をする。 Reading Practice 100語程度の英文を決められた時間で読み、問題に答える。その後、話を要約して再話する。	単語の意味確認以外は英語で要約できるかを確認する。	
復習	Q & A で教科書本文の内容確認 新出文法事項の確認	映像を見せながら、内容を英語で確認する。	
導入 展開 まとめ	前もって生徒が作った評価基準を確認する。 4人班になって、それぞれの作文を読み合い、評価基準に沿って見直しをする。 班で協力してより良い英文になるように努力する。 班で問題となった英文をクラス全体で共有し、全体で考え、解決する。 班で一番内容が良いものを選ぶ。 全体で発表する。	電子黒板で表示する。 机間指導を行い、文法・語彙・内容に関する生徒の質問に答える。	ア 他の生徒の英文に興味、関心を持って読み、聴く。辞書を活用して間違いの訂正をする。(観察による評価) イ 自分の意見をまとめて書くことができる。(作品を回収して評価)
振り返り あいさつ	振り返り Greeting		

(7) 成果と課題

本年度は「つながり、かさなり、広がる授業」の最終年次であり、教科の本質となるコミュニケーション能力を育成するための指導と評価の一体を意識して研究に取り組んだ。特に書くことによるコミュニケーションに重点を置いた。4技能の中で最も難しいとされているライティングを、論理的に指導するための手立てを準備し、それに従って授業を進めた。

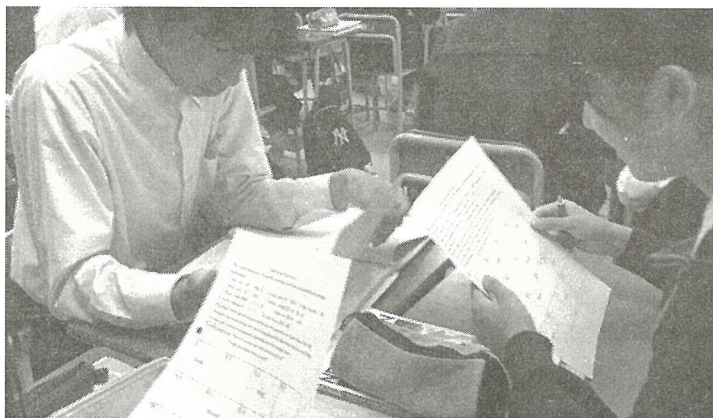
1学期にはパラグラフライティングを導入し、英語の作文の型を示し、教科書各課のトピックについてのパラグラフを何度も書いた。はじめは教師が英文の添削を行っていたが、徐々に生徒間で添削し合う形態(peer correction)に移行した。まず、英文をより良いものにするための評価規準を生徒に考えてもらい、それぞれの項目をポストイットに書き、クラスで精査した後、「チェックしま表」を作った。それ以降は4人班で評価規準に沿ってお互いに英文を添削し、1つの題材で最低2回は班で見合った。

成果としては、英文を書くことに慣れ、パラグラフライティングの手法もだいたい身についたように思える。他の生徒の英文を読んで、文法やスペルの間違いに気づくことで、英語の能力が必然的に伸びたと考えられる。また、他の生徒の意見を読むことで、自分の考え方の幅が広がったと考えられる。

課題としては、まだまだ英語の知識が十分でない生徒同士で英文の添削をすることは無理があるのではないかという指摘もある。また、班で添削をすると、どうしても「他力本願」になってしまう傾向が見られた。訂正の過程を明らかにするために、評価規準の項目ごとにボールペンの色を変え、色の変化によって添削の過程を視覚化することで、一人ひとりの生徒が自己評価をすることができ、より良い英文を書くことができると思われる。

コミュニケーションの手段として、ライティングがますます重要視されると思われる。生徒が自由に自分の意見を世界に発信することができるように、中高6年間を通して、より効果的で論理的にライティングを学べるシステムを作るために研究を続けていきたい。

pronunciation drill



チェックしま表
How can I get a perfect score?
Use this checklist!

Punctuation and others

- 文頭は大文字で始まっている。
- 固有名詞は大文字で始まっている。
- (ピリオド) (カンマ) (クエスションマーク) が正しく使われている。
- 単数と単数の間が空いている。
- 単数のスペルが正しい。
- 指定された語数を守っている。
- 字が丁寧で読みやすい。

Grammar

- 主語、述語がはっきりしている。
- 時制が一致している。
- 3人称単数現在 (-s) がある。
- 冠詞が正しく使われている。(名詞の単数/複数)
- 前置詞が正しく使われている。
- 動詞の活用が正しい。
- And / But で文章が始まっていない。
- 他の文法が正しく使われている。

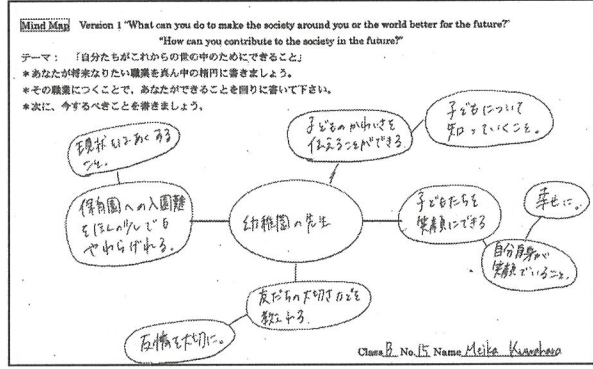
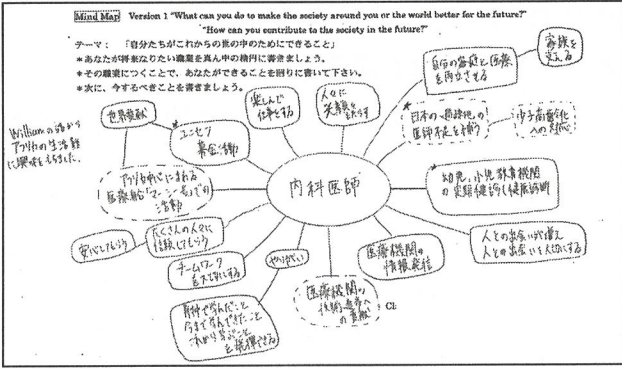
Paragraph Writing

- 主題文がある。
- 理由が2つ以上ある。
- それぞれの理由に具体例が2つ以上ある。
- 結論文がある。

Content (内容)

- テーマと内容が一致している。
- 面白く、人を引きつける内容である。
- わかりやすい。
- 接続詞を効果的に使って、文につながりがあり、まとまりがある。
- 文章はすべてオマリジナルである。
(テーマが友達と同じでも、理由と具体例は独自の文章である。)

1. アイディアマッピング



2. 質問に答えて考えをまとめる。班で添削

大阪教育大学附属池田中学校 3年英語科通信 No. 45-a November, 2015
Fly much Higher Lesson 7 We Can Change Our World

Version 1:
(1) What do you want to be in the future? (What do you want to do in the future?)
I want to be a doctor of international medicine.

(2) How can you contribute to society by it?
There are two things I can contribute to society.
First, I want to do medical checkup for the children in under populated areas in Japan and support a lack of doctors.
(Then, many children can live life in peace.)
Second, I want to do fund-raising campaign for UNICEF and help the people in Africa, poor countries. (Then, the world will get more peaceful.)

(3) What should you do to make your dream come true?
I should study harder.
I should make a lot of efforts.
I should think "for people" every day.

大阪教育大学附属池田中学校 3年英語科通信 No. 45-a November, 2015
Fly much Higher Lesson 7 We Can Change Our World

Version 1:
(1) What do you want to be in the future? (What do you want to do in the future?)
I want to be a preschool teacher in the future.

(2) How can you contribute to society by it?
If I become to be a preschool teacher, I will be able to do three things. First, I will be able to tell mothers how to raise a child. Second, I will be able to reduce mothers who are troubled by their work. Third, I will be able to make children happy and smile.

(3) What should you do to make your dream come true?
I think I can do three things.
First, I will learn a lot about children.
Second, I'll keep smiling. I think smile can spread to children.

3. ドラフト1 班で添削

We Can Change Our World
draft
version 1

(1) I want to be a doctor of international medicine.

(2) I can contribute to society by two things.
First, I want to do medical checkup for the children in under populated areas in Japan and cover a lack of doctors.
Second, I want to do fund-raising campaign for UNICEF and help the people in Africa, poor countries.

(3) (So/Therefore) to make my dream come true, I should three things.
First, I should study harder than ever.
Second, I should make more efforts than ever.
Third, I should think "for people" every day.

We Can Change Our World
draft
version 1

(1) I want to be a preschool teacher in the future.

(2) I can contribute to society by doing three things.
First, I will be able to tell mothers how to raise a child.
Second, I will be able to reduce the number of mothers who are busy with their work.
Third, I will be able to make children happy and smile.

(3) (So/Therefore) to make my dream come true, I should do three things.
First, I will learn a lot about children.
Second, I will keep smiling. I think smile will be able to spread to children. I want them to be happy.
In short, I can do something for children.

4. 最終メール

Dear William,

I am very impressed by your story. I am a girl who is a junior high school student. I think you are so kind that you supported not only your family but also your country and the world.

I want to be a doctor of international medicine. I can contribute to society by doing medical checkup for children in underpopulated areas, and doing fund-raising campaign for UNICEF. Then I can make the world more peaceful.

So to make my dream come true, I should do three things.
First, I should study harder than ever.
Second, I should make more efforts than ever.
Third, I should try to follow the person I respect like you.

Best Wishes,

Dear William,

My name is Meika.
I'm a junior high school student in Japan.
I'm very much impressed by your story. I think you are a brave person because your windmill made electricity for lights in your home when you were only 14 years old. I'm 15 years old now, but I can't do such a thing.
By the way, I have a dream. I want to be a preschool teacher in the future. I can contribute to society by doing three things.
First, I'll be able to tell mothers how to raise a child. Second, I'll be able to reduce the number of mothers who are busy with their work. Third, I'll be able to make children happy and smile.
Therefore, to make my dream come true, I should do two things. First, I'll learn a lot about children. Second, I'll keep smiling.
I think my smile will spread to children. I want them to be happy.
In short, I can do something for children.
Thank you for reading.
Best wishes,